

「社会に出る前に」

山形大学大学院理学研究科地球科学専攻 2年 板垣 道

私の所属する山形大学理学部地球環境学科には、多くの女子学生が在籍しています。現在は学科全体の約半数は女子です。私が学部へ入学した当時は今よりも女子は少なく、特に私の学年はたったの5名と、最も女子の少ないクラスでした。もともと、女子高校出身の私にとっては衝撃的な環境でした。私は、父の仕事の影響もあり、早くから地球科学に興味を持っていました。試験を受けなければ大学に入れないことも知らずに、将来は研究者を夢見ていました。念願かなって大学に入学でき、そして、すばらしい先生、良い友人に恵まれ、学ぶことの楽しさを知り、あらゆる人間としての責任を自分で持ち、現実の厳しさなども知り…。

この様な訳で、現在に至るのですが、大学の中では、男性も女性も差が無く生活しています。少なくとも私は、地学分野が男社会であると意識したことはほとんどありません。確かに体力的には劣ることもあるかもしれませんが。フィールドに出るときは一人で心細く思うこともあり、友人についていってもらうこともよくあります。サンプリングしたい岩石が割れないことも時に

あります。野外でトイレが無くて困ることもあります。(外でも以外に開放的でイイらしい。)先生方も女子学生がいる点ではそれなりに気を配ってくださっているのでしょう。でも、この学問が好きで、研究したいと思う気持ちには男女の差は無いのではないのでしょうか。やる気の表現には個人差も見られますが。

2年前、4年生になり、どの学部の友人たちも就職活動を始めました。私自身も、学部を卒業したら当然就職するはずだ、と考えていました。就職氷河期の中、紺やグレーのスーツを着た彼女たちは汗をかきながら活動していました。彼らだって同じ。学ぶために入学した大学。その最終年は次のステップに進むための活動期になってしまっていたのです。「何かが違う。」私にはそのような気がしてなりません。

決して不満だけが私の進学理由ではありません。その時の私の夢は、地学の普及に携わること。教師という職業にこだわるのではなく、例え他の仕事を持ちながらでも、ある県で活動的な地団研のように、休日に子供たちを集めて自然に触れ合い親しむ、そのようなことが山形でも出来たらどんな

に幸せか。その為に本来の研究（火山地形）だけではなく、堆積学や化石も勉強したい。機会もあって私は県立博物館で化石クリーニングのアルバイトをし、大学で研究を続け、少しでも多くのことを学ぶことを望みました。みんなが就職活動をしている時に…。

現在も、夢も生活も変わっていません。同じ学年の友人は皆一生懸命働いています。大学以前の仲間には、結婚して子供のいる人だっています。私はこの年になっても両親に世話になり、世間からどう見られているか気になることだって当然あります。ただ、自分の人生に妥協したくないだけです。おそらく、私が男であればそれこそ妥協してでも就職していたに違いないと思います。この歳になってもこうしてられるのは、両親が元気で、協力的であり、そして私には夢があるからです。

さて話を元に戻して、実際社会に出た女性たちはどうなのでしょう。大学の中では男女の差が無く生活してきた者にとって最初に受ける試練は就職活動です。私も現在就職活動中の身なのですが、まだ企業訪問まで至らないので、詳しいことはわかりません。ただ、「今年度の女子学生は就職状況が厳しい」というような話は例年間かれます。毎年学科の女子学生の割合が増えるにつれその厳しさも増すようです。学生の多くはこの業界への就職を希望していま

す。この業界への就職だけに限ったことではありませんが、やはり、企業訪問時や面接試験で女性であるが故に発せられる質問は存在していると聞きます。現在は、本屋で女子学生専用の就職マニュアル本が売られています。その内容は大変おもしろいものです。女性は、自分自身を攻撃的、温厚的、内向的などいくつかのパターンに分けて読み進めてゆくのです。ほとんどゲーム感覚です。相手企業にもよりますが、おそらく攻撃的に出れば、面接官世代には悪印象になるのでは、と私は思いますが、どうでしょう？

逆に最近は女子学生に対して好意的な企業もあるようです。これも、山形大学に限らず、多くの大学OGの皆さんが苦勞して作り上げた実績のおかげであると感謝しています。本来、日本の企業は全て男性社会でした。女性は、その社会に飛び込み、自身の自立、男女の平等を唱えました。当時の女性は、現在では当然であることでさえも、それを行動として起こせば偏見の眼差しで見られたのでしょう。私たちはその分、楽になったと思います。

話だけを聞けば、この業界はまだ男性社会の色が濃いようです。力仕事というイメージが強く、女性の進出が遅れた訳もあると思います。企業によっては現在も女性には事務職しか開かれていない所もあるのではないのでしょうか。

私の同期女子5名の内（公務員を含めて）3名は、現在この業界で技師として働いています。彼女たちは就職する時「仕事は辞めない。もし、結婚してもやめたくない。」そうして、今年は「ようやく仕事を覚えて出来るようになってきた。」と楽しそうにいました。様々な資格取りにもチャレンジしているようです。本当に頑張っています。同期だけに限らず、毎年学科内で開催されるOB会には多くのOGの方が来られ、先輩方も生き生きと現在の様子を話されていきます。これから就職する私にとって、彼女たちは心強い師匠です。

そこで、企業の皆様へお願いがあります。女子学生をもっと採用してください。男性と同様に、とまでは言いません。これからますます、女性の社会進出は当然になっていきます。この様な時に女性だからといって採用しないのは損だと思うのです。男性には男性にしかできないこと、女性には女性にしかできないこと、そして男女が共に出来ること（これからはここが増えていくでしょうけど）、と仕事の中で男女が共存していく将来を考えて欲しいのです。もっ

と欲を言えば、男や女ではなく、この仕事はこの人になら出来るという、個人を見る目で私たちを見て欲しいのです。

結局私も、現在は大学生生活の最終年の一部を使って就職活動をしています。妥協したわけではありません。社会に出てもっと色々な方向に目を向けたいと考えた結果、現時間はその為の準備期間だと考えられる様になりました。就職して、そこで終わりではなく、一生勉強です。ある本に書かれてありました。——人間が学ぶことをやめたら人間であることの価値が無くなる——と。

ちょっと重苦しい文章になってしまいましたが、要は、私にも仕事をさせて。いやそんなことではない…。地質業界は今後も必要とされていく分野です。女性の皆さん頑張らしましょう。男性の皆さんも頑張ってください。学生である私たちも将来必ず大学で学んだことを生かすチャンスがあると思います。そんな日を夢見ながら、日々学業、そして社会勉強!?

最後に、このような機会を与えてくださった貴協会に感謝いたします。